

社 会 科

現代社会におけるフィールド・ワーク（第2報）

田 中 裕 巳

はじめに

現代社会におけるフィールド・ワーク（野外学習）は、現行指導要領への移行（1982年）以来、毎年実施されてきた。高校社会科教育のオリエンテーションとして、見学や直接体験を重視し、調査研究をまとめる能力を重視してきた。もちろん本校では高1における野外学習の伝統があり、旧指導要領では地理の教師を中心として取り組まれてきた。（注①）現代社会に移行してからの実践にも地理の時代の問題意識とノウハウが生かされてきた。

本校の現代社会におけるフィールド・ワークに関しては、既に次の2つのレポートがある。

- ・田中裕巳「現代社会におけるフィールド・ワーク」（84年、本校紀要第29集）
- ・川田基生「高校一年『現代社会』野外学習——実践記録——」（87年、本校紀要第32集）

フィールド・ワークとは言っても、88年度までは3クラス、バス3台を連ねての団体見学が中心であった。そこでは、地域の問題を通しての日本経済の動態、産業構造の変化などの経済学習、裁判所などでの政治学習、障害者施設などの見学を通しての社会福祉の学習が中心であった。

今回レポートする89年度の実践においては、新しく2つの試みが行われた。

一つは、バスでの団体見学をやめ、少人数グループによるテーマ別のフィールド・ワークにしたこと。少人数グループによるフィールド・ワークは、中学校の方で先に87年度から実施された。（注②）この形態の方が、班毎の事前指導には極めて多くの時間を奪われるが、フィールド・ワークとしては自主性とより積極的な参加が必要になり、メリットの方が大きい。そういう反省から、高1での実施に当たっては生活指導上の問題が中1以上に懸念されたが、とにかく、高1でもそろそろやってみようということで、グループ別に踏み切った。

いま一つは、フィールド・ワーク全体のテーマを、公害・環境問題に絞ったことである。88年度までの取り組みにおいても、都市高速道路の問題や中川運河・名古屋港の汚染問題なども取り上げられては来たが、主たる学習課題とはなっていなかった。高1におけるフィールド・ワークを、ひとり社会科だけの行事とし

て取り組むのではなく、できるだけ学年全体で取り組むためには、理科Ⅰ、保健との協力体制が必要である。そういう意味で、理科Ⅰ、保健にも単元としてある公害・環境問題をフィールド・ワークのテーマとすることは適切でなかったかと思う。この年度、担任団の中に理科と保健（養護）の教師が居たことも、テーマを絞りこんだ条件の一つであった。

1. グループとテーマの決定

89年度のフィールド・ワークは、環境・公害問題を中心として、理科の教師達の協力を仰ぐこととなった。保健の授業は、学年担任の養護教諭ではなく、体育の非常勤講師が担当しているため、理科・社会の協力体制で実施することを考えた。

取り組みの手始めとして、理科会への協力を次のように呼びかけた（9月26日）。

「11/17高1野外学習の実施について

1. 趣旨 社会、理科の総合学習的な行事として取り組みたい。

2. スケジュール

・生徒達の取り組みは中間テスト終了後から

10月12日（木） 教官会議に計画案提出

16日（月） 社会・理科の立場からのテーマの最終調整

21日（土） 中間テスト終了

24日（火） 生徒にテーマを提示、希望調査（これ以後、現社・理科Ⅰで事前指導）

31日（火） 生徒のグループ分け決定、顧問教官決定

11月6日（月）OR13日 連絡会にて実施案配布

13日（月） 各グループ、行動予定最終決定・提出。学活にて発表。事前指導

17日（木） 帰りのSTで諸注意

18日（金） 実施当日

25日（土） 研究レポート提出

27日（月） 学活にて発表会。

12月20日（水） 報告書発行

3. 実施方針

①テーマ 環境問題・公害問題を中心的なテーマとする。

《主に社会科的な内容のテーマ例》

・ゴミ処理問題 ゴミ処理場の見学

現代社会におけるフィールド・ワーク（第2報）

- ・資源リサイクル ゆたか作業所の見学
- ・新幹線公害訴訟 原告団からの聞き取り・調査
- ・都市高速公害 環状2号線問題、鏡ヶ池線問題、立ち退き問題・公害対策問題
- ・名古屋市公害研究所の見学
- ・日照権訴訟
- ・その他

《主に理科的な内容のテーマ例》

- ・名古屋市内の水質汚染
全グループに河川・運河・池の最低一箇所の水採取を義務づける。
水質検査は校内で生徒達の手で。
- ・鏡ヶ池線周辺の騒音検査 騒音測定器具は保健所より貸出
- ・水中生物の調査 汚染度を調べる。
- ・野鳥の調査 藤前干潟埋め立ての影響、宅地造成と野鳥、平和公園
- ・その他、大気汚染・地盤沈下・土壌汚染・表土流出などについて。

※適当なテーマ、コースがありましたら出したいと思えます。

②グループ編成

- ・クラス単位 1班5～8名編成 6～8班全部で20班程度 男女は問わない。←担任団と相談。
- ・顧問教官 社会科・理科の教師を中心に各1名の顧問をつける。
調査方法の指導を受け、計画案を作成。

当日、行動を共にするわけではない。」

以上のような申し入れに対して、理科会では、理科全体での指導は出来ないが、理科I担当者の協力は惜しまないという返事もらった。そこで今年度のフィールド・ワークのテーマは、環境・公害問題を中心とすることに決定した。この直後、現社の授業の中で生徒達にフィールド・ワークの実施方針として示されたものは次の通りであった。

「11/17高1 野外学習予定

1. 趣旨 社会、理科の総合学習的な行事として取り組む。
2. スケジュール（省略）
3. 実施方針
 - ①テーマ 環境問題・公害問題を中心的なテーマとする。

《主に社会的な内容のテーマ例》

- ・ゴミ処理問題 ゴミ処理場の見学
- ・資源リサイクル ゆたか作業所の見学

- ・汚水処理場の見学
- ・浄水場の見学
- ・新幹線公害訴訟 原告団からの聞き取り・調査
- ・都市高速道路公害 環状2号線問題、鏡ヶ池線問題、立ち退き問題・公害対策問題
- ・環状鉄道について
- ・バス専用レーンについて
- ・名古屋の地下鉄 桜通り線の利用状況
- ・地下街の安全対策 地震・火災などに対して
- ・空港問題 戦時中の用地接収について、騒音対策
- ・名古屋市公害研究所の見学
- ・日照権訴訟
- ・土地開発と遺跡の保存について
- ・桃花台ニュータウンの構想と現状
- ・原子力発電 中電の内部告発問題
- ・その他 デザイン博の功罪、生協運動、安全食品

《主に理科的な内容のテーマ》

- ・名古屋市内の水質汚染
河川・運河・池の最低一箇所の水採取。
水質検査は校内で生徒達の手で。
- ・鏡ヶ池線周辺の騒音検査 騒音測定器具は保健所より貸出
- ・水中生物の調査 汚染度を調べる。
- ・野鳥の調査 藤前干潟埋め立ての影響、宅地造成と野鳥、平和公園
- ・建物の中の化石を探す
- ・名古屋市内の地形を歩いて確かめる 地形と土地利用との関係
- ・施設の見学 ガラス成形 中央はりき製作所、名古屋市工業研究所、セラミックス工業試験所、通商産業省工業技術院名古屋工業技術試験所、電力技術・電力利用技術研究所、省エネのミツバの水耕栽培施設（中川区富田町）
- ・その他、大気汚染・地盤沈下・土壌汚染・表土流出などについて。

②グループ編成

- ・クラス単位 1班5～8名編成 6～8班全部で20班程度 男女は問わない。←担任団と相談。
- ・顧問教官 社会科・理科の教師を中心に各1名の顧問をつける。
調査方法の指導を受け、計画案を作成。
当日、行動を共にするわけではない。

③学習内容の発表

- ・報告書作り

・スライド・録音作成またはビデオレポート作り

④当日のスケジュール

8:30 学校集合

8:40 ヶ出発

15:00 ヶ集合、解散。

10月25日から、クラス毎に授業の中で班の編成と研究テーマの検討に入った。班編成については、各クラスとも7～8名の6班編成を原則としたが、結果的にはA組が7班、B組が6班、C組が5班というアンバランスな結果になった。できるだけ男女混合の各クラス6班編成を目指したが、A組は女子が7班を譲らず、C組は10人の班まで出来てしまった。当初の原則は崩れたが、後の結果を考えると成行きで良かったとも言える。

各班の研究テーマの決定にも手間取った。比較的スムーズにテーマやコースを自分達で決定できた班はむしろ少数で、顧問の教師の助言で概略が決定されて行ったと言った方がよいだろう。各班の研究テーマとコースは最終的には次頁の表のように決められた。

2. 当日の様子

実施案は11月13日の会議で検討された。以下は社会科で提出した実施案の一部である。

高1 野外学習の実施について

I. 目的 名古屋周辺の公害・環境問題を考える。

(現代社会・理科Iの総合学習的な立場から)

II. 日時 11月17日(金)

8時30分学校集合

3時以降5時までには班毎に学校に戻り解散

III. 各班のテーマとメンバー等

〈A組〉

1班 新幹線公害について——原告団副団長武藤氏に会う、沿線被害家屋(◎源造・酒井・笹田・尾関・犬飼)顧問田中

2班 東山スカイツワーについて——東山公園事務所、スカイツワー、周辺家屋(◎西尾圭・杉江・大森・岡田・服部・近藤・伊藤)顧問丸山

3班 地盤沈下について——日光川、名古屋市公害研究所(◎栗田・紙谷・大江・小倉・安田・高木・山田)顧問高須

4班 名古屋港の環境問題——稲永野鳥観察館、名古屋港管理組合環境保全課(◎金吉・高島・林・西尾麻・高橋・鈴木・吉田)顧問田中

5班 大気汚染と日照権について——名古屋市公害対策局、建築課相談係(◎富松・遠藤・鈴木・幸・藤本・景山)顧問原(幸)

6班 動物愛護センターと浄水場——動物愛護センター、大治浄水場(◎小川・大野・前田・柴田・

横井・玉崎)顧問川田

7班 水問題——堀留下水処理場、大治浄水場(◎萩下・牧・今西・浅井・岡本・松井)顧問原(幸)

〈B組〉

1班 地下鉄桜通り線について——今池・名古屋各駅長、利用者へのインタビュー(◎本多・原田・原・川瀬・中村・盛田)顧問丸山

2班 名古屋の都市高速道路問題——環2工事現場、大川浩正医師(◎馬淵・中原・岩堀・一柳・荒井・奥村幸・北岡・亀井・鬼頭・成瀬)顧問山田

3班 名古屋空港の諸問題——名古屋空港事務所(◎長田・石倉・日比・松岡・奥村算・大堀・福住・小久保)顧問山田

4班 主要河川の水質汚染について——水の採取と諸検査(◎新井・文岡・浅井・坂田・丸山・山川)顧問原(英)・石川

5班 弥富町の金魚と地盤沈下——町役場、養殖場(◎渡邊・小林・日高・足立・薄木・小島)顧問原(幸)

6班 地価高騰問題——名古屋市公害局、不動産鑑定士協会(◎斉藤・梅田・長谷川・近藤・武居・安積・坂上・友住)顧問川田

〈C組〉

1班 中部国際空港問題——常滑市役所企画調整室 空港担当、愛知県航空対策室(◎上田・吉田・伊東・鬼頭・井後・押谷・加藤晴・丹羽・早瀬・水谷)顧問田中

2班 鏡ヶ池線問題——高速道路公社、反対同盟上田氏(◎井倉・山田・近藤義・岩崎・小野・池田・松本・森本)顧問丸山

3班 名古屋のゴミ問題——市環境事業局作業課、山田工場(◎田中歩・筒井・水野・高木・北沢・田中樹・前田・川瀬・佐藤)顧問田中

4班 平和公園の自然環境を調べる——平和公園周辺住民の会井上氏、東山公園管理事務所(◎若林・小川・酒井・広瀬・矢崎・飯田・後藤・杉本・榊原)顧問三橋

5班 水質汚染の研究——名大省資源エネルギー研究センター、水圏科学研究所、名古屋市公害研究所(◎田川・荒木・山野・北川・神野・加藤三・林・近藤ま)顧問原(英)・石川

⑤引率

高1担任団6名と社会科4名——全員全日引率と言うわけではない。

⑥事前指導 11月13日(月)合同LT 各班の調査予定の発表、諸注意

⑦事後指導 発表会(現社の授業の中でスライド使

現代社会におけるフィールド・ワーク（第2報）

各班のテーマ、メンバースケジュール

(A組)		顧問	午 前	午 後
1班	新幹線問題 (◎源造・酒井・笹田・尾関・犬飼)	田中	学校8:40--8:55本山--六番町-- 原告団副団長武藤さんの案内で行動	14:00終了--六番町14:30--15:00 本山--学校
2班	東山公園一帯の変貌と環境問題 (◎西尾圭・杉江・大森・岡田・ 服部・近藤・伊藤)	丸山	学校8:40--9:30スカイタワー 清水さん--10:30周辺住民へ インタビュー	13:00東山公園総合事務所--14:30 東山を見学15:00帰路(東山--本山160円)
3班	地盤沈下とその実態 (◎栗田・紙谷・大江・小倉・安田・ 高木・山田)	高須	学校8:40--8:55本山--新名古屋 --10:00 近鉄蟹江--見学--12:00蟹江発	13:00名古屋--14:00市公害研究所 15:00--名鉄大江--16:20学校到着
4班	名古屋港の環境問題 (◎金吉・高島・林・西尾麻・高橋・ 鈴木・吉田)	田中	学校8:40--8:55本山--築地口 --バス稲永公園--10:00野鳥観察館 --昼食稲永公園	13:00名古屋港管理組合 --環境保全課栗田氏の説明 --15:00名港--16:00学校
5班	都市化に伴う環境問題-- 大気汚染と日照権 (◎富松・遠藤・鈴木・幸・藤本・景山)	原幸	学校8:40--9:00本山--9:20 市役所--市役所東庁舎大気騒音課 --10:30測定場所	13:30市役所西庁舎建築課-- 辻係長の話15:30--市役所駅--16:10 本山--16:30学校
6班	動物愛護センターと浄水場 --動物愛護センター、大江浄水場 (◎小川・大野・前田・柴田・横井・玉崎)	川田	学校8:40--9:30動物愛護センター	13:30大治浄水場--16:20学校
7班	水について--堀留下水処理場、 大治浄水場 (◎萩下・牧・今西・浅井・岡本・松井)	原幸	学校8:40--9:30堀留下水処理場 11:30--	13:30大治浄水場--16:30学校

(B組)

1班	地下鉄桜通り線の調査 (◎本多・原田・原・川瀬・中村・盛田)	丸山	学校8:40--9:00 本山--9:20今池・駅長室-- 11:00 100人インタビュー--12:00	13:00名古屋駅・駅長室--13:30 地下街見学(売行き・客の数) --14±30名古屋--学校
2班	都市高速道路を考える (◎馬淵・中原・岩堀・一柳・荒井・ 奥村幸・北岡・亀井・鬼頭・成瀬)	山田	学校8:40--9:00市役所9:30 --10:30環状2号線工事現場 (名東区引山) 11:30--	13:30大川医師宅14:30--15:00 騒音測定(東別院)--16:30学校
3班	名古屋空港の諸問題について (◎長田・石倉・日比・松岡・奥村算・ 大堀・福住・小久保)	山田	学校8:40--地下鉄・バス--10:00 名古屋空港11:30--昼食	空港周辺の騒音測定--15:00学校着
4班	山崎川の水質調査 (◎新井・文岡・浅井・坂田・丸山・山川)	石川 原英	学校8:40--9:00石川橋--10:00 瑞穂運動場東口 --11:00新瑞橋--12:00笠寺	13:00JR笠寺--13:30地下鉄金山-- 14:00学校--実験--16:00終了
5班	弥富町域における地盤沈下と金魚養殖の 諸問題 (◎渡邊・小林・日高・足立・薄木・小島)	原幸	学校8:40--9:00本山--9:31 近鉄名古屋--9:46 弥富--10:00役場 半田さんの案内	14:30役場--14:45弥富--15:15 名古屋--15:45本山--16:10職員室
6班	地価高騰について (◎斉藤・梅田・長谷川・近藤・武居・ 安積・坂上・友住)	川田	学校8:40--9:00本山--9:25 市役所--9:35 公害局--11:25上社--11:30北村土地	12:35上社--13:00名駅--13:25 日本不動産鑑定協会--14:50 名駅発--15:40学校着

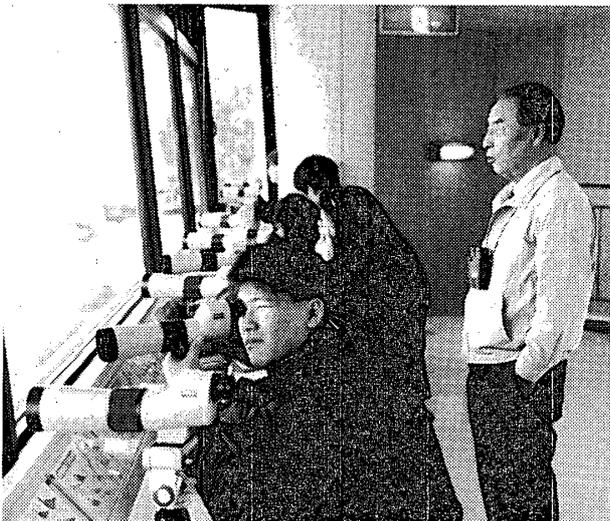
(C組)

1班	中部新国際空港の問題 (◎上田・吉田・伊東・鬼頭・井後・ 押谷・加藤晴・丹羽・早瀬・水谷)	田中	学校8:40--9:37名古屋発-- 10:20常滑着--10:30 市役所企画調整室空港担当	12:15常滑発--13:00名古屋着-- 13:30県庁航空対策課--15:30帰り
2班	高速道路鏡ヶ池線問題 (◎井倉・山田・近藤義・岩崎・小野・ 池田・松本・森本)	丸山	学校8:40--9:00本山--9:35 上社・反対同盟山口氏宅--11:00 上社--11:30丸の内	13:00道路公社--14:40本山駅-- 15:00住民の声
3班	ゴミ問題について (◎田中歩・筒井・水野・高木・北沢・ 田中樹・前田・川瀬・佐藤)	田中	学校8:40--9:00本山--9:30 市役所環境事業局作業課 --11:30名城公園で昼食	12:00名駅--12:20バスに乗る-- 13:00山田工場・見学-- 15:32バス--16:00名駅--
4班	平和公園の自然について (◎若林・小川・酒井・広瀬・矢崎・ 飯田・後藤・杉本・榊原)	三橋	学校8:40--9:10 東山公園総合管理事務所--10:30 井上氏の案内で新池・雑木林の見学	13:00ユーカー園--13:30湿地-- 14:00猫が洞池--15:00学校着
5班	水質汚染の研究 (◎田川・荒木・山野・北川・神野・ 加藤三・林・近藤ま)	石川 原英	学校8:40--8:45名大省エネ ルギーセンター9:50--10:10 名大水圏科学研究所11:30--学校	昼食--2:30学校発--14:00 市公害研究所15:00--16:30学校着

用) 報告書の作成

当日は8時半に学校集合。遅刻者は皆無で、簡単な注意の後、各班は40分すぎにはそれぞれの目的地に向かって出発して行った。

私は午前中はA組4班の引率をした。地下鉄栄駅まではいくつかの班が一緒であったが、栄駅で名城線名古屋港行きに乗り換えると、この班だけとなった。築地口でバスに乗り換え、野跡のバス停からは徒歩で稲永の市立野鳥観察館に向かった。私も初めて行く場所であり、下見をしている生徒もいなかったため、少し遠回りをした結果になったが定刻には着くことが出来た。生徒達はたった一人の職員である館長さんの説明を聞きながら、11時過ぎまで野鳥観察をしたり質問をしたりした。



《市立稲永野鳥観察館にて》

午後は市の公害研究所に向かった。公害研究所に来るのはA組の3班とC組の5班の予定である。1時半頃に到着すると、A組3班は間もなく来たが、C組5班は時間ぎりぎりの到着であった。それでも遅刻ではなかったから、生徒諸君も時間厳守で行動しているようで安心した。研究所では、まず教室で名古屋の水質汚染と地盤沈下の説明をそれぞれの専門研究員から説明を受けた。そのあと屋上で酸性雨の測定などの説明を受け、各実験室で電子顕微鏡や無音室などの器具・施設の見学した。公害研究所は10名ほどのグループで回るのが一番良いようで適当な人数であったように思う。



《名古屋市公害研究所屋上にて》

公害研究所での勉強は、当初1時間程度の予定であったが、水質汚染と地盤沈下について研究員の熱心な説明と質疑だけで1時間ほどかかった。施設の見学は足早であったがそれでも予定より40分ほど延びてしまい、徒歩でJR笠寺駅まで歩き、学校に戻ってきたのは5時を少し過ぎていた。

このように教師が引率した班が半分程度あった訳であるが、生徒達の反応は「心強かった」とか「より深い質問をしてくれて助かった」と好意的に取るものと、「もっと信頼して欲しい」「うっとうしい」と迷惑がるものがある。数の上では前者が圧倒的に多いが。

《先生が一部であるが、引率、同行したことについてはどう思うか》・・・実施日翌日のアンケートより

- ・「研究所で先生がいてとても見学しやすかったと思った。」(A組3班 紙谷建穂)
- ・「別に良いと思う。むしろ同行した方が良かったのではないかと先生が信頼して下さっているとはいえ(一部)遊んでしまう生徒が出るだろうから。少々先生が口を出したところで生徒の自主性をそこなうという問題でもない。」(A組6班 小川恭子)
- ・「いろいろなアドバイスをもらって、その点は良かったと思うが、同行までしたら、班行動の意味がなくなると思う。」(B組4班 山川貴子)
- ・「訪問先で、時間ぎりぎりまで話すと、先生が適当に打ち切ってくれた。僕達にはやりにくかった。」(B組6班 齊藤剛)
- ・「別にどちらでもいいけど、もうみんなだけできちんと行動できると思う。」(C組1班 加藤晴美)
- ・「良かったと思う。先生が同行することによって相手の態度が変わったと思う。」(C組2班 岩崎勤)
- ・「はっきり言ってあんまりいいことではありません

ね。生徒を信頼していないのではないかと思った。私は中2の時とか自由行動とかやったけど、そんなに引率とかしなかったし、ポイントにいただけだから。もっと生徒と先生との信頼がなきゃいけないのではないのでしょうか？」（C組3班 水野多恵子）

3. 反省と今後の問題点

生徒指導上の問題を何か起こすのではないかという心配で、中学よりも実施が2年遅れたグループ別野外学習もとにかく無事終了した。以下に、実施に当たった問題点、まとめの段階での問題点などを整理し今後の参考に供したい

(1) 事前学習と各班の研究テーマの決定について

今回は全体テーマを名古屋周辺の環境・公害問題としたにも関わらず、公害・環境問題にテーマを絞るのにかなり難航した。実施が11月ということもあり、「現代社会」における事前学習にしても時間が余り足りなかったように思う。

この年度は、「現代社会と人間の生き方」の領域から入り、「現代社会の基本的問題」に移行して行ったのは10月20日前後であった。教科書は教育出版『最新現代社会』（河野健二監修）を使用し、第3章福祉社会の実現・第3節国民生活の諸問題・3公害と環境保全を中心としながら、次のような授業を展開した。

- ・生態系（エコ・システム）・食物連鎖1時間
- ・産業公害・森林破壊による砂漠化1時間
- ・環境アセスメント・ナショナルトラスト運動1時間
- ・足尾鉾山鉍毒事件・4大公害事件と裁判2時間
- ・名古屋の公害（大気汚染・水質汚濁・光化学スモッグ・地盤沈下）1時間

合計6時間、2週間分を使ったわけだが、授業の記録ノート（生徒が順番に記録）には次のような感想もあり、実施直前には心許ない。

「今の授業はつまらない。前の倫理の時のの方がよかった。私個人としては、マルクスの考えとJ. S. ミルの考え方が好きだ。環境問題とかいうのは“たいせつ”なことだが、今の私にはあまりわからないことだ。」

（11月7日 A組高島緑）

名古屋の公害については、名古屋市の『産業の名古屋』、『公害の現況』などを資料として用いたが、あまり詳しく触れる時間はなかった。各班のメンバーは顧問の教官のもとへこの間、2～3回は相談に行き、前掲の表のようなテーマが決定された。

- ・水の問題が6班（A4、A6、A7、B4、B5、C5）
- ・交通の問題が6班（A1、B1、B2、B3、C1、C2）
- ・都市化による環境破壊が3班（A2、A5、C4）

- ・地盤沈下の問題が2班（A3、B5）
- ・動物愛護の問題が2班（A4、A6）
- ・大気の問題が1班（A5）
- ・地価の問題が1班（B6）
- ・ゴミ処理の問題が1班（C3）

テーマとしては延べ数であるが、都市公害・環境破壊の問題としてみると、水問題（水質汚染・上下水道の問題）と交通問題（大気汚染・振動・騒音・日照権・立ち退き問題）の2つに関心が集中したと指摘できる。

(2) 当日の安全確保について

まず集合と解散の問題であるが、野外学習中の意識を高め安全を確保するために、今回は学校での集合・解散とした。集合時での注意を再度したいと考えたわけだが、結果的にはロス時間を沢山作る事となってしまった。過去2回中1で試みたように、集合解散のポイントを地下鉄駅を中心に数カ所設け、そこで朝の出欠を確認し、解散時の注意をすれば十分であった。その方が行程を考える上でも、無駄が出なかったであろう。

当日は12時から1時の間に、学校に中間報告の電話を簡単に入れることを義務づけていたが、これもほぼ厳守された。1班のみ予定の時間を10分余り遅れて連絡が入ったが、バスに乗っている最中であったということである。引率した教師達はポケットベルを携帯していたが、レンタル料は安価であるので、全教師が携帯していた方が良かった。

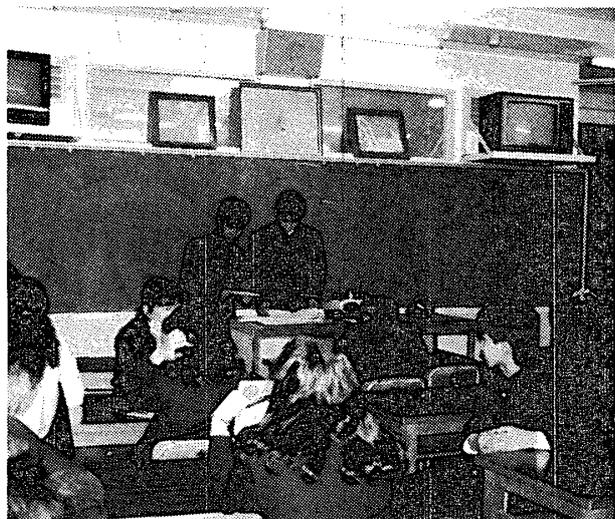
解散時、最後の班が学校に到着したのは6時少し前で、既に下校時刻を過ぎていたが、この点も集合解散の場所を考慮すれば解決できる問題である。

(3) 事後の発表会・報告書について

各班の研究結果の発表については、口頭による発表と報告書の作製を予定していた。発表会では、スライドまたはビデオによる発表を行うように、ということで各班にスライド用のフィルム各1本を持たせた。実施の当日または翌日にフィルムを提出させたが、普通のフィルムしか携行しなかった班が一つと、フィルムの入れ方を間違えたか(?)全く映っていなかった班が一つあった。また地盤沈下を調べたAの3班のみが8ミリビデオによるレポートを作製した。

各クラスとも発表会を2学期期末テスト後の「現代社会」の授業の際に持った。

発表会は各クラス毎に実施したわけだが、LTなどを使って3クラス合同で実施した方が、各班の研究成果を比較したり、より活発なものとできたかも知れない。スライドを使っての説明には、ただ資料を棒読みという班が多く、スライド1枚、1枚の説明を前もって考えさせておいた方が良かったのだろう。スライド



〈社会科教室での発表会C組〉

を作製し使わせた効果には経費の割にはやや疑問が残った。それに比べてただ1班、8ミリビデオでのレポートを作ったA組3班のレポートは出色であった。8ミリビデオの撮影編集に興味を持っている生徒がいたということが、最大の原因ではあろうが、8ミリビデオは、説明してくれた人の音声も入れられるし、自分達のナレーションを入れることも出来るという点で、この班の発表は他の班の興味も十分に引き付けるに足るものであった。野外学習の発表の手段として、8ミリビデオの使用は今後大いに奨励されて良いように思う。目下学校には一台しかないで、レンタルなどの方法で全班に持たせ、記録の係の重要性を認識させることも必要だろう。

一方、報告書の作製も2学期末の完成を目指したが、生徒側には期末テスト、教師の側には本校独自の入試の準備業務といった問題があり、完成は学年末になってしまった。『高校生が見た名古屋周辺的环境・公害問題』と名付けた報告書を、野外学習の実施に当たってお世話になった方々・各方面にお送りしたのは春休み中となってしまった。

(4) 公害・環境問題についてどのような認識の深まりがあったか

報告書『高校生が見た名古屋周辺的环境・公害問題』の中での生徒達の報告をいくつか引用してみよう。

- ①「濃尾平野の地下水盆を共有している私達は地下水の採取の規制、地盤沈下、地下水位のことをもっと知るべきであり対策を考えるべきだと思います。」(A組3班)
- ②「日照権とは、今後増えて行くだろうと考えられる問題であり、私達は自分達の地域の住宅状況にもっと関心を持たなければならない。」(A組5班)

- ③「改めて下水処理場と浄水場の大切さを知った。」
「普段使っている水がどのようにできて、どのように、処理されているかを知り、水の大切さが分かった。」(A組7班)
- ④「あまりとりあげられない車《都市高速道路問題》を実際に自分の目で見て調べたりできたことがよかったですとおもいます。またまだこの問題は解決されないとおもいますが行政側の人にはもっと市民の立場にたって考えていってほしいです。」(B組2班)
- ⑤「少しでも汚染がすすんでいないとよいと思ったが、結論として残念ながらまだ全般的に汚さを感じられた。特に南区の宝生橋では川の色まで変化していた。今後ぼくたちの後輩が調べるときにはもっときれいな川に……。」(B組3班)
- ⑥「地盤沈下といわれてもよくわからないけど、今回いろいろ聞き、少しは理解できたと思います。沈下したものは、元に戻らないので『こわいなあ』と思いました。しかし温泉という私たちの健康にとてもよい影響を与えてくれるので、悪いことばかりではないなあと思いました。」(B組5班)
- ⑦「環境問題と地価高騰との接点についていうと、極端に前に公害のおこるところは地価が安いというだけしかわからず、残念に思います。しかし、レポートのどこかにあったように、人と人とのつながりが消えてゆきそうな個人主義があらわれてきたこと背景には、この“地価高騰”にも少なからず関係しているのではと思います。」(B組6班)

以上は、報告書の中の見学・調査についての感想・意見に当たるものの主なものである。大半が野外学習の際に入手した資料や説明のまとめに終始してしまい自分たちの感想・意見をまとめるまでには至っていない。そういう中で自分たちの感想・意見まで書いてあるのは少数派なのであるが、①や②の「関心を持つべき」「もっと知るべき」という市民・住民の怠慢を批判する論が多い。もちろん市民・住民はもっともっと関心を持つべきだし、知るべきなのではあるが、④に代表されるような行政側の怠慢・住民無視などの姿勢にも気づかせたい。行政側と公害訴訟の原告団や住民組織などの両面からの聞き取りを行った班では、そういう認識をより深めることが出来たようだ。この点は、野外学習実施の翌日に行ったアンケートにも良く出ている。

- ①「自分たちが“これは便利でいい”と思って利用しているものの裏には被害にあっている人が沢山いるのだとわかった。それに対応している役所の人たちはあまりしんげんにことの重大さを考えていないと思った。」(A組1班 源造由利)
- ②「野外学習では、市からみた意見と住民からみた意

見とがだいぶ異なっていて、住民側は高速道路問題（騒音・大気汚染など）の本音を聞くことができたけれども、一般住民の人も、実際には新幹線など使っているのに、住民側の意見を全て聞き入れることはかなり難しいと思った。」（B組2班 北岡恵理子）

③「こんなに公害が進んでいるとは・・・公害について何も知らなかっただけに考えさせられました。また少し行政側の言っていたことに反感（といたら何ですが・・・）を持ちました。」（B組2班 亀井昌代）

④「道路公社の方々が、大事な質問をはぐらかして答えたのがすごく腹が立った。」（C組2班 井倉智之）

⑤「公社と反対同盟の人の態度があまりにも違っていたこと」（C組2班 小野省悟）

地域や国家で政治的争点となっている問題について扱うことを自主規制してしまうことが教師には多い。しかしながら公害・環境問題については、あくまでも「生命や健康を守る」という立場から切り込むことが可能なはずである。行政側も「生命や健康を守る」ことを否定して、公共性や企業利益を追求することは出来ないはずである。公害・環境問題について、行政側と

住民組織の両方の視点から問題を捉えさせることは、物事を複眼的に捉えることを可能にする。また自らの意志決定として、「生命や健康を守る」視点から考えるのか、公共性や企業利益を優先させるのか、その思考訓練をすることにもつながる問題である。そういう意味で、地域の公害・環境問題について自分の足と目で調べる野外学習には得られるものが無数にあると思う。

注

- ①藤田佳久「地理野外学習の展開事例」（68年度紀要、本校紀要第14集、以下すべて本校紀要）
加藤佳孝「『郷土の学習』における野外学習の展開事例」（69年度、第15集）
原幸宏「地理における野外学習の位置づけ」（78年度、第23集）
原幸宏「野外学習にともなう作業学習——有機的な関連——」（79年度、第24集）
- ②田中裕巳「中1野外学習“グループ別市内見学”の実践」（88年度、第33集）